

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	地域観光産業 I		( NGH13K )
講義名 (コード)	地域観光産業 I A		( NGH13KA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	地域観光産業について、日本の観光・上田市の観光の特徴を理解する
全体の内容と概要	日本の観光事業に大きな影響を与えている、日本伝統工芸の体験や観光産業を知る
授業時間外の学修	日本での生活を通じて、日本の「楽しい」を観光事業に結びつける
履修上の注意事項等	授業中での言語は原則日本語で実施するため、ヒアリング出来る程度の日本語学力が必須

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	日本語で自己紹介ができる	自己紹介が出来る
2	日本の伝統国工芸を理解できる	日本の日本伝統工芸を知り、長野県の伝統工芸について考える
3	祖国の伝統工芸を発表できる	日本の伝統工芸品のような物で、祖国の伝統工芸について調べて発表
4	日本伝統衣装を理解できる	「着物」を知り、日本人の着物事情や着物観光を調べる
5	信州紬を理解する①	長野県内の日本伝統工芸品「信州紬」についてチームで調べる
6	信州紬を理解する②	チーム毎に「信州紬」がどういう物かを発表する
7	着物を着ている人を見つけることができる	学校周辺で着物を着ている人を探し、インタビューする。
8	インタビュー結果を共有できる	インタビュー内容を発表し、内容共有
9	上田紬を理解する	藤本塩田店の岩下先生による「上田紬」の授業
10	機織り体験ができる	<フィールドリサーチ> 藤本塩田店へ行き機織り体験
11	フィールドリサーチのまとめができる	フィールドリサーチの体験をまとめて、発表ができる
12	テスト内容を理解できる	春学期のテストの内容を理解し、勉強する
13	テスト勉強ができる	テスト勉強をする
14	テストを受けることができる	テスト実施
15	フィードバックができる	半年を振り返って授業の感想を報告

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	レストランサービス I		( NGH13A )
講義名 (コード)	レストランサービス IA		( NGH13AA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数	30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本と自国のサービスに対する意識の違いを知り、日本の「おもてなし」に興味を持ってもらう レストランサービスの実践を通し、敬語を使ったサービスができるようになる
全体の内容と概要	特定技能1号外食業のテキストのうち、接客全般の内容を含む知識を学習する フランス料理のマナー・サービスを理解し、敬語を使ったサービスを実践する
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 自国のレストラン・日本のレストランの体験について話す
2	ホテル内にあるレストランについて考えることができる	ホテルのレストランはどのような時に使われるか話す カジュアルレストランとの違いを考え、接客の注意点について話す
3	接客サービスについて理解することができる	おじぎの種類、接客基本用語、身だしなみについて知り、実践する
4	ホテル内にあるレストランについて考えることができる	洋食・和食などホテルのレストランの種類を調べる フランス料理店のメニューを調べ、コース料理の構成を理解する
5	サービススタッフの基本技術を実践することができる	フランス料理のテーブルセットについて知っていることを話し、実践する フランス料理の食事のマナーについて知っていることを話し、実践する
6	サービススタッフの基本技術を実践することができる	トレーの持ち方・水の注ぎ方・お皿の持ち方、下げ方について知り、実践する
7	サービススタッフの基本技術を実践することができる	チュールン・サーバーを使ったサービスについて知り、実践する
8	サービススタッフの基本技術を実践することができる	テーブルセットから料理のサービス・パッシングまでの流れ及びテーブルマナーを、ホテルスタッフとお客様になって実践する
9	サービススタッフの基本技術を実践することができる	実技テスト / 敬語ワーク
10	サービススタッフの基本技術を実践することができる	実技テスト / 敬語ワーク
11	敬語を使ったサービスを実践することができる	ホテルのレストランでのお出迎え、席案内、着席補助・お見送りの方法について敬語を使って何と云うか考え、実践する
12	敬語を使ったサービスを実践することができる	メニュー・コース料理の簡単な説明・オーダーテイクの方法について敬語を使って何と云うか考え、実践する
13	敬語を使ったサービスを実践することができる	ホテルのレストランでのお出迎えからお見送りまでの流れを敬語を使って実践する
14	まとめ	前期期末テスト（筆記）
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	「飲料サービスの教科書」NPO法人日本ホテルレストラン経営研究所刊 特定技能1号外食業技能測定試験学習用テキスト【接客全般】【飲食物調理】【衛生管理】
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ホテルサービス I		( NGH13C )
講義名 (コード)	ホテルサービス IA		( NGH13CA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高木 裕衣	時間数	30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	勤務歴：(株) プリンスホテル	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ホテル内の業務について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についてオリエンテーション 自国の有名なホテルについて調べる
2	興味のあるホテル・旅館について調べ、発表することができる。	自国の有名なホテルについて調べてまとめ、発表する
3	ドアマンの業務の流れを理解することができる	<第1課> ドアマンの仕事を理解しながら、ホテルでお客様をお迎えする時に使う表現を知る。
4	ホテルの入り口でお客様を出迎え、フロントまで案内することができる	<第1課> 基本問題で言葉の意味を確認し、ロールプレイを行い、動きも確認する。
5	フロントの業務の流れを理解することができる	<第2課> フロントの仕事を理解しながら、チェックインの時に使う表現を知る。
6	フロントでお客様をお迎えし、チェックイン業務ができる	<第2課> 基本問題でチェックインの流れを再確認し、チェックインのロールプレイを行う。
7	ベルスタッフの業務の流れを理解することができる	<第3課> ベルの仕事を理解しながら、お客様を客室まで案内すると気に使う表現を知る。
8	フロントでお客様をお迎えし、客室まで誘導できる	<第3課> 基本問題で表現を再確認し、実際のホテル内の地図を見ながら案内の方法を考える。
9	学習したことを実践できる①	<第1課>、<第2課>、<第3課> で学習したことを振り返り、ドアマン～ベルスタッフの流れのロールプレイを行う。①
10	学習したことを実践できる②	<第1課>、<第2課>、<第3課> で学習したことを振り返り、ドアマン～ベルスタッフの流れのロールプレイを行う。②
11	客室系の業務の流れを理解することができる	<第4課> ハウスキーピングの仕事を理解しながら、お客様からご要望があった際に使う表現を知る。
12	お客様の要望に迅速に対応することができる	<第4課> 基本問題で表現を再確認し、どうすればお客様に一歩進んだ対応ができるか考える。
13	前期で学習したことを確認し、実践できる。	筆記テスト
14	前期で学習したことを確認し、実践できる。	実技テスト①
15	まとめと解説	実技テスト② / フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ホテルの日本語
参考文献・資料等	マナー&プロトコルの基礎知識
備考	テキスト補助教材の動画を視聴し、実際の場面を想像ながら練習を行う。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ホスピタリティマインド I		( NGH13E )
講義名 (コード)	ホスピタリティマインド IA		( NGH13EA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	中村 真衣	時間数	30
成績評価教員	中村 真衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「おもてなしの心」とは何か、少し理解できるようになる	授業の進め方についてオリエンテーション ＜第1課＞ これまでに感動したサービスや印象に残っている接客を思い出してまとめる
2	「おもてなしの心」とは何か、少し理解できるようになる	＜第1課＞ 自国と日本の接客を比べ、「おもてなし」について考える。
3	会釈、敬礼、最敬礼ができるようになる	＜第1課＞ 分離礼の実践 サービス業でよく使う表現と合わせて練習する。
4	第一印象を良くする身だしなみを整えることができる	＜第1課＞ の復習(まとめ問題) ＜第2課＞ 「おしやれ」と「身だしなみ」について考える。
5	良い人間関係を構築するためのあいさつができる	＜第2課＞ サービス業における「表情」について考える。 物の指し示しと受け渡しの方法を知り練習する。
6	手で指し示しながら誘導することができる	＜第2課＞ の復習(まとめ問題) ＜第3課＞ 実際の場面を想像して、お客さまを誘導する練習する。
7	方向を指し示しながら誘導することができる	＜第3課＞ の復習(まとめ問題) お客さまをホテルのフロントから客室まで案内することを想定して練習する。
8	お客さまに対して、確認してから提案ができるようになる	＜第3課＞ の復習(まとめ問題) ＜第4課＞ サービス業における「確認」の方法を学ぶ。
9	お客さまの気持ちを察し、一歩進んだ対応ができるようになる	クッション言葉について学び、 お客さまが求めていることを察して提案する練習をする。
10	お客さまが安心できる対応をすることができる	＜第4課＞ の復習(まとめ問題) ＜第5課＞ お客さまの心理を考え、対応する練習をする。①
11	一番良い方法で迅速に対応できる	お客さまの心理を考え、対応する練習をする。②
12	前期で学習したことを確認し、実践できる。	＜第5課＞ の復習(まとめ問題) 第1課～第5課の復習をし、テストに向けて練習する。
13	前期で学習したことを確認し、実践できる。	実技テスト①
14	前期で学習したことを確認し、実践できる。	実技テスト②
15	まとめと解説	実技テスト③ / フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	マナー&プロトコルの基礎知識
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	旅行業務 I		( NGH13G )
講義名 (コード)	旅行業務 I A		( NGH13GA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	株式会社ヤドロク	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本国内の公共交通機関や様々な観光地の知識を得て、ツアーの造成をしてみよう。
全体の内容と概要	日本国内の魅力的な観光地の知識を深める 公共交通機関等の移動手段について知る
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	旅行業務について	旅行業務についての概説
2	交通機関について	日本国内の様々な交通機関を知り、目的地に到達する手段を考える
3	交通機関について	日本国内の様々な交通機関を知り、目的地に到達する手段を考える
4	交通機関について	目的地を設定し、到着するまでのシュミレーション①
5	交通機関について	目的地を設定し、到着するまでのシュミレーション②
6	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
7	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
8	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
9	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
10	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
11	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
12	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
13	日本国内の観光地について	様々な観光地について知識を深める
14	観光地を巡る	2つの観光地を結ぶ 時間と料金も考慮①
15	観光地を巡る	2つの観光地を結ぶ 時間と料金も考慮②

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特に選定しない
参考文献・資料等	随時配布
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本観光地理 I		( NGH13J )
講義名 (コード)	日本観光地理 I A		( NGH13JA )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本の主要観光地理を学び、日本語や英語で簡単な紹介ができる。前期は、主要都市や各地方ブロック毎、後期は、各都道府県毎に学修する。観光業界に必要な基礎地理を学ぶ。
全体の内容と概要	日本の基本的な観光地理を学び、日本人旅行者のみならず、急増するインバウンド客にも日英両語で簡単な案内ができることを目指す。
授業時間外の学修	上田城を見学して、国宝の松本城や日本各地の名城、入場者が多いお城について理解する。真田幸村を通じて、戦国時代、サムライや忍者について学ぶ。
履修上の注意事項等	母国から友人や家族が上田に来た時、どこを案内するかを発表してもらおう機会を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	簡単な自己紹介ができる。	学習者の日本語や英語のレベルを確認し、将来の仕事や夢を聞いて参考に する。通訳案内士（通訳ガイド）について自己経験を紹介する。
2	県内観光地の現況を理解できる (①)	北信地区（長野、山之内、小布施、飯山、野沢温泉）を学習する。
3	県内観光地の現況を理解できる (②)	東信地区（上田、軽井沢、佐久、東御、小諸）を学習する。
4	県内観光地の現況を理解できる (③)	中信地区（松本、大町、安曇野、白馬、上高地）を学習する。
5	県内観光地の現況を理解できる (④)	南信地区（飯田、伊那、南木曾馬籠、駒ヶ根）を学習する。
6	県内観光地の現況を理解できる (⑤)	諏訪湖周辺（岡谷、塩尻、諏訪、茅野）を学習する。
7	長野県全体を概略できる。	2から7までを復習して、簡単な県内旅行を作成させ発表してもらう。
8	首都圏の現況を理解できる。 (⑥)	東京、神奈川（横浜）、千葉について学習する。
9	関西圏の現況を理解できる (⑦)	大阪、京都、奈良について学習する。
10	中京圏の現況を理解できる。 (⑧)	愛知（名古屋）、静岡、岐阜、三重について学習する。
11	⑥～⑧以外の地区の現況を理解 できる(⑨)	北海道、東北、四国、中国、九州、沖縄について学習する。
12	ゴールデンルートやエリア毎の 現況を理解できる。(⑩)	日光、箱根、高野山、北陸、世界遺産（佐渡）、日本遺産、有形無形文化 遺産、グルメ、人気特産品やグルメ、各地の温泉について学習する。
13	日本全体を概略できる。	8から12までを復習して、簡単な国内旅行を作成させ発表してもらう。
14	まとめとテスト	前期で学んだ内容を中心にしたテストを実施する。
15	フィードバック	試験用紙返却、成績や結果について講評、質疑応答など。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科
参考文献・資料等	随時必要な資料をコピーして配布する。朝刊紙の中から観光関連記事を選んでペアあるいはグ ループ学習に活用する。（スキヤニング等）
備考	随時必要な観光土産、グッズ、記念品、ゆるキャラ商品、レアリアを提示する。（例）最近、超 人気の「ちいかわ」、長野県のアルクマ、千曲市のあん姫。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	動画マーケティング		( NKT13U )
講義名 (コード)	動画マーケティング		( NKT13UX )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース WEBマーケティングコース/観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	梶原 優輝	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	動画の基礎となる部分を学習し、動画を用いて自身の伝えたいことを表現できるようにする。
全体の内容と概要	映像制作において必要な知識や、動画撮影・編集の基本的な考え方の解説。Premiere Proの操作解説。
授業時間外の学修	映像素材撮影の指示の可能性あり。
履修上の注意事項等	なし

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	何気なく視聴している動画に対する意識を変化させる	動画について考えてみよう
2	動画を作ることを理解することができる	動画を観ることと作ること
3	映像制作で使われる表現方法について知ることができる	動画の表現方法を学ぼう
4	撮影に必要な機材の種類やレンズの特性について理解できる	撮影機材のことを知ろう
5	動画制作に関わる法律やルールについて理解することが出来る	映像制作で気を付けるべきこと
6	実際に動画を撮影して学んだことを体感で覚えることができる	動画を撮影してみよう
7	Premiere Proで動画編集するための設定や考え方、UIの見方を知ることができる	動画を編集してみよう1
8	実際に動画を編集し、複数の動画素材を繋げることができるようになる	動画を編集してみよう2
9	テロップや簡単なエフェクトの効果の追加や動画の書き出しができるようになる	動画を編集してみよう3
10	映像の色や音の調整について理解できる	動画を編集してみよう4
11	自分や他の人が作った動画を観て、様々な考え方に触れることができる	完成した映像をみんなで観てみよう
12	Youtubeの規約や権利について理解し動画のアップロードができるようになる	Youtubeにアップロードしてみよう
13	学習してきた内容を再確認する	総復習
14	講義内容の総まとめ 動画提出等	期末試験(動画取り込み～編集・書き出し)
15	総評	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	英語資格対策 I		( NKT15C )
講義名 (コード)	英語資格対策 I A		( NKT15CA )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	今学期は準2級取得のために必要な基礎固めをするため、文法の復習と単語習得に力を入れる。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語1～50 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集を解き、自分の弱点を知る。
2	単語51～100 / 時制・態が理解 できるようになる	自動詞・他動詞・完了形・進行形・受動態の確認と練習問題を解く。
3	単語101～150 / 助動詞の働き が理解できるようになる	will/shall/can/ may/must/ would/ shouldの基本的用法を学びながら問題を解く。
4	単語151～200 / 不定詞・動名詞・ 分詞が理解できるようになる	不定詞と動名詞の働きを学び、慣用表現を覚える。
5	単語201～250 / 関係代名詞が理 解できるようになる	関係代名詞の使い方を学び、それに関する問題を解いてみる。
6	単語251～300 比較級が理解できるようになる	比較級を理解し、関連問題を解く。
7	単語301～350 最上級が理解できるようになる	最上級を学び、関連問題を解く。
8	単語351～400 / 現在完了形が理 解できるようになる	現在完了を理解し、関連問題を解く。
9	単語401～450 / 前置詞・接続詞が 理解できるようになる	紛らわしい前置詞・接続詞を的確に使えるようにする。
10	単語451～500 / 準2級の単語・ 熟語がわかるようになる	よく出る単語・熟語を学び、過去の穴埋め問題を解く。
11	単語501～550 / 必要な語彙・熟 語が理解できるようになる	語彙を増やすために派生語・接尾語を覚える。
12	単語551～600 / 語彙・熟語・フ レーズが理解できるようになる	語彙や熟語が自分の物となっているか復習テストを受ける。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、肘井学のゼロから英文法
参考文献・資料等	英検準2級過去問集（2025年度版）、英検準2級総合対策教本
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化理解 I		( NKT15G )
講義名 (コード)	異文化理解 I G		( NKT15GG )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	グローバル化が進む今日の社会で、ダイバーシティを尊重し、国際理解を深める
全体の内容と概要	異文化理解の概念や現存する問題などを紹介し、学生自ら考え、グループワーク、ディスカッション、発表などを行う
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介でそれぞれの学生の文化的背景を理解する	自己紹介、お花見
2	異文化理解はなぜ必要か 異文化理解とは何かを理解できる	文化とは何か、文化による差異を理解する
3	それぞれの学生の国について 地理的な面から学ぶことができる	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について 場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する
4	異文化適応について 理解することができる	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す
5	行動、視点、環境による文化の違い を体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える
6	行動、視点、環境による文化の違い を体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う
7	イメージと固定観念について 理解できる	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する
8	ステレオタイプが理解できる	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える
11	世界各地の価値観について理解する①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う
12	世界各地の価値観について理解する②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す
13	前期のまとめ	まとめプリント
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスコンピューティング I		( NKT15I )
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティング IE		( NKT15IE )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、Wordで基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成して基本操作を身につける 検定試験を目標に操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 後期からは資格試験の練習に入りますので、前期で基本的な操作を身につけてください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動して操作・保存・終了 文字入力（漢字以外）ができる	Wordの基礎（起動→画面構成確認→保存） タイピング練習 文字の入力（ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号）
3	文字入力（漢字変換）を覚える ファンクションキー・IMEをつかえる	文字入力 漢字変換・ファンクションキー変換・IMEの使用 タイピング練習
4	短文の文章を入力して 効率的な変換を覚える	短文を入力して効率的な変換を覚える
5	長文の文章を入力して ページ設定を覚える	長文を入力してページ設定を覚える
6	ビジネス文書の作成 社内文書の配置を覚える	文書作成 ご案内（社内文書）作成 文章入力→配置→保存まで
7	編集機能・書式設定ができる	編集機能（コピー・切り取り・貼り付け）の活用 書式設定（フォント・段落グループボタン）の利用
8	表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	表の作成 表の入った文書の作成・ページ設定
9	ビジネス文書の作成 社外文書の配置を覚える	文書作成 社外文書（あいさつ文の利用）
10	オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
11	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
12	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
13	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスター Word & Excel2021 留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）・レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザイン I		( NKT15K )
講義名 (コード)	キャリアデザイン I D		( NKT15KD )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	・自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ (インターンシップ含む)
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢 ・基本的に授業の前半にインプット、後半は学生自身で調べたり考えたり、発表する時間を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができるようになる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介、キャリア面談表の記入
2	基本的なビジネスマナーを理解できるようになる	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できるようになる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】就活計画の検討と作成
4	キャリアについて理解できるようになる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表
5	自分の強みを発見し、認識できるようになる	【強みの発見】人生曲線の説明 【演習】人生曲線の記入と強みの理解
6	自己分析し、自分史をまとめることができるようになる	【自己分析】自分史/長所の確認 【演習】自分史の作成、分析
7	他人の紹介ができるようになる	【他己紹介】ジョハリの窓/友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、発表（2分/人）
8	自分の特性を知ることができる	【コンピテンシー】コンピテンシーとは 【演習】自身のコンピテンシーについて記入
9	自己PR書の作成ができるようになる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	筆記試験について理解できるようになる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
11	インターンシップについて理解することができるようになる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップを実施している企業の検索
12	与えられた課題についてグループディスカッションができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
13	チームで発表ができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	前期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【前期試験フィードバック】試験のフィードバック、前期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザイン I		( NKT15K )
講義名 (コード)	キャリアデザイン IE		( NKT15KE )
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティーコース グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介 【演習】キャリア面談票の記入
2	基本的なビジネスマナーを知る	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】進路活動ハンドブックの使い方、記名、活用方法について
4	キャリアについて理解できる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表 【宿題】メンターを決め、その人の「仕事観」「人生観」をヒアリング
5	レジリエンスについて理解し、自分の強みを発見することができる	【レジリエンス】レジリエンスについての理解、人生曲線の説明と記入 【演習】強みの発見
6	インターンシップについて理解することができる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップについて検索し、自分がインターンに行く企業を探す
7	自己分析し、自己紹介ができる	【自己分析】長所確認～自己PR 【演習】自己紹介文作成、発表（1分/人）
8	他人の紹介ができる	【他己紹介】友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、シェア
9	自己PR書の作成ができる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	雇用、社会、企業を理解できる	【仕事理解①】仕事の世界、産業と仕事、仕事と資格 【演習】自分の興味のある産業を考える
11	どんな仕事があるかを理解できる	【仕事理解②】職業情報収集について 【演習】自分の気になる仕事について調べる、発表（2分/人）
12	筆記試験について理解できる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
13	与えられた課題についてグループディスカッションができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	チームワークで課題についてまとめることができる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいことと、その手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
15	前期試験	【前期試験】記述式+13&14のプレゼンテーションの総合点で評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Webマーケティング基礎 I		( NKT15M )
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎 I B		( NKT15MB )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にする事の多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業参加への参加態度並びに態度の評価対象とする。□		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	制作実例の紹介、授業の進め方とWEBマーケティング・デザインの基本的な説明
2	基本的な要素を組み合わせることができる	ソフトの操作に慣れながら、自己紹介のPOPを作ろう
3	基本的な要素を組み合わせることができる	ソフトの操作に慣れながら、自己紹介のPOPを作ろう
4	効果的な配色や配置を理解することができる	色と形、フォントや余白の役割
5	シンプルな表現で、相手に伝えることができる	効果的なキャッチコピーを考えよう
6	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街に出て、気になる看板やポスターを探そう
7	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街で見つけたデザインを発表する
8	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》商品売るためのポスター作り
9	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》商品売るためのポスター作り
10	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》商品売るためのポスター作り、発表
11	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
12	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作
13	コンセプトやターゲットを絞った広告を制作できる	自分のお店の広告制作、発表
14	期末テスト	お菓子のオリジナルキャラクターを作ろう
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	検定対策 I		( NKT15S )
講義名 (コード)	検定対策 I E		( NKT15SE )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でPowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 資格試験もあるので1年生のうちに基礎を身につけるようにしてください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	PowerPointの基礎を覚える	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存
3	スライドのレイアウトの種類 オブジェクト操作を覚える	スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入
4	スライド、挿入したオブジェクトの 編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
5	スライドショーの実行ができる 配布資料の印刷設定ができる	テーマ、アニメーション、スライドショー スライドの印刷（印刷設定、ヘッダー・フッターについて）
6	ブラッシュアップ機能が操作できる	配色・テキストの書式設定の変更 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Excelのグラフを挿入して 編集できる	グラフや図形の挿入（Excelのグラフ挿入）
8	オブジェクトの挿入ができる	グラフや図形の挿入（図形・SmartArt・オンライン画像の挿入）
9	PowerPointにグラフを挿入できる	PowerPointでグラフ作成 Excelとのちがいを確認、書式の設定
10	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
11	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
12	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
13	今まで学習した機能を活用した プレゼン資料の作成ができる	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2021 留学生のためのパソコン入門
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語コミュニケーション I		( NKT15U )
講義名 (コード)	日本語コミュニケーション IC		( NKT15UC )
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース/観光ホスピタリティーコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向がわかる	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	自分の過去の状況や気持ち 説明できる・人を励ますことができる	文法（ばかりに、ものか、というものだ） 語彙（第1回）
3	自分の状況や決意したことを話せる ①	文法（ばこと、ないことはない、わけにはいかない） 語彙（第2回）
4	自分の状況や決意したことを話せる ②	文法（のみ、まとめ問題） 語彙（第3回）
5	これまでの経緯や状況の 説明ができる①	文法（からみると、一方で、ことから） 語彙（第4回）
6	これまでの経緯や状況の 説明ができる②	文法（のみならず、といった、にしたがって） 語彙（第5回）
7	試験の傾向を知る	模擬試験
8	試験の傾向を知る	模擬試験、フィードバック
9	試験の傾向を知る	フィードバック
10	レポートや論説文の説明ができる ①	文法（得る、に反して、に関して） 語彙（第6回）
11	レポートや論説文の説明ができる ②	文法（反面、理論上は、つつある） 語彙（第7回）
12	レポートや論説文の説明ができる ③	文法（に限らず、まとめの問題） 語彙（第8回）
13	ビジネスの場面で社外の人との やりとりができる	文法（敬語、につきまちは、まとめ問題） 語彙（第9回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TRY！日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス日本語 I		( NKT16A )
講義名 (コード)	ビジネス日本語 I E		( NKT16AE )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	原 泰明	時間数	30
成績評価教員	原 泰明	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「自己紹介」ができる1	自己紹介に関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
2	「自己紹介」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
3	「あいさつの基本」ができる1	ビジネスシーンでのあいさつに関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
4	「あいさつの基本」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
5	「電話を掛ける・受ける」ができる1	電話対応での新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
6	「電話を掛ける・受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
7	「注意する・注意を受ける」ができる1	注意する・受ける時に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
8	「注意する・注意を受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
9	「頼む・断る」ができる1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
10	「頼む・断る」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
11	「許可をもらう」ができる1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
12	「許可をもらう」ができる2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
13	第1回～第12回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『ビジネス日本語30時間』（スリーエーネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本語資格対策 I		( NKT16C )
講義名 (コード)	日本語資格対策 I B		( NKT16CB )
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	榑原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榑原 倫代	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向を知る	読解・聴解ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	文章のしくみが理解できる	読解：文章全体の意味をとらえる練習をする 聴解：聴解に必要な「課題理解・ポイント理解・概要理解」の形式を知る
3	対比のしくみが理解できる	読解：ほかのものと比べながら実践問題を解く練習をする 聴解：聴解に必要な「即時応答・総合理解」の形式を知る
4	言い換えの仕組みが理解できる	読解：ほかの言葉で言い換える問題を読み解く練習をする 聴解：似ている音、音の変化や縮約形などを聞き分ける練習をする
5	比喩の表現が理解できる	読解：比喩が使われている文章を読み解く練習をする 聴解：「即時応答」のスキルを学ぶ
6	試験の傾向がわかる	模擬試験
7	試験の傾向がわかる	模擬試験 F B
8	疑問提示文について理解できる	読解：なぜ、どうして、このようになどの疑問文を使って問題を解く練習 聴解：即時応答—最初の文を理解する
9	筆者の主張表現が理解できる	読解：筆者が自分の意見であることを示す表現を読み解く練習をする 聴解：即時応答—返事の文を考える
10	問いを解く技術を身につけることができる	読解：文章の細かい部分を正確に読み取る練習をする 聴解：「課題理解」のスキルを学ぶ
11	『指示語』が何を指しているかを理解できる	読解：「これ・それ・あれ」などの指示語を読み取る練習をする 聴解：課題理解—すべきことを理解する
12	「だれが」「何が」「何を」などを問う形が理解できる	読解：「だれが・何が・何を」などを読み取る練習をする 聴解：課題理解—最初にすることを考える
13	前期のまとめと解説	試験前のまとめ
14	前期のまとめと解説	期末試験
15	前期のまとめと解説	期末試験のフィードバックを通じて前期勉強したことの確認をする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	新完全マスター読解N2	新完全マスター聴解N2
参考文献・資料等		
備考		

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナー I		( NKT16E )
講義名 (コード)	ビジネスマナー I F		( NKT16EF )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	・自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ (インターンシップ含む)
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢 ・基本的に授業の前半にインプット、後半は学生自身で調べたり考えたり、発表する時間を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができるようになる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介、キャリア面談表の記入
2	基本的なビジネスマナーを理解できるようになる	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できるようになる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】就活計画の検討と作成
4	キャリアについて理解できるようになる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表
5	自分の強みを発見し、認識できるようになる	【強みの発見】人生曲線の説明 【演習】人生曲線の記入と強みの理解
6	自己分析し、自分史をまとめることができるようになる	【自己分析】自分史/長所の確認 【演習】自分史の作成、分析
7	他人の紹介ができるようになる	【他己紹介】ジョハリの窓/友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、発表（2分/人）
8	自分の特性を知ることができる	【コンピテンシー】コンピテンシーとは 【演習】自身のコンピテンシーについて記入
9	自己PR書の作成ができるようになる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	筆記試験について理解できるようになる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
11	インターンシップについて理解することができるようになる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップを実施している企業の検索
12	与えられた課題についてグループディスカッションができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
13	チームで発表ができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	前期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【前期試験フィードバック】試験のフィードバック、前期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネス英語Ⅲ		( NKT24A )
講義名 (コード)	ビジネス英語ⅢB		( NKT24AB )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、特にスピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力の向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズを復習し、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	初対面の同僚に自己紹介ができるようになる	実際の場면을想定しながらペアで練習する。
2	ビジネスミーティングで自己紹介ができるようになる	実際の場면을想定しながらペアで練習する。
3	ゲストを同僚に紹介することができるようになる	実際の場면을想定しながらペアで練習する。
4	1～3回【挨拶】の復習	様々な場면을想定して練習する。
5	留守電にメッセージを残すことができるようになる	留守電にメッセージを残す方法を練習する。
6	電話で伝言を残すことができるようになる	電話で伝言を残す方法を練習する。
7	同僚に伝言を伝えることができるようになる	同僚に伝言を伝える方法を練習する。様々な場면을想定して適する時制を 使えるようにする。
8	5～7回【電話】の復習	様々な場면을想定して練習する。
9	空港でチェックインできるようになる	空港でチェックインする方法を練習する。
10	入国審査や税関を通過できるようになる	入国審査や税関を通過する場면을練習する。
11	9～10回【海外出張編】の復習	様々な場면을想定して練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、 Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅲ		( NKT24C )
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅢC		( NKT24CC )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEICの形式や傾向を理解し、実際のテストに備える
全体の内容及概要	文法・語彙・listeningに必要な知識を増やし練習問題に取り組む
授業時間外の学修	TOEICによく使われる単語を覚える
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	現在・現在完了・進行形を理解し、使い分ける事ができる。	現在・現在完了・進行形の説明後unit 1:part 5の練習問題
2	TOEICのreadingの解き方を理解できる。	文法の復習：unit1 part6 reading 何に注目して読むことが必要かを学ぶ。
3	簡単な場면을英語で説明できる。	写真を見て状況を英語で説明してみる。Unit1 listening に挑戦
4	過去・過去完了・過去進行形の特徴を理解できる。	過去・過去完了・過去進行形を説明後、unit2:part5 の穴埋めの練習問題。
5	Reading の解き方を理解し語彙を学ぶ。	文法の復習：unit 2 part6 reading の練習問題。
6	簡単な文章や会話の聴解ができる。	簡単な英文を聞き、書きとってみる。会話を聞いて内容を理解する練習。
7	不定詞・動名詞のそれぞれの使い方が理解できる。	不定詞・動名詞の使い方を学習後、unit3:part5の練習問題。
8	Reading の解き方と語彙を学ぶ。	文法の復習とunit 3:part6の練習問題。
9	簡単な場면을英語で説明できる。	写真を見てその場면을英語で説明する。会話を聞いて内容を理解する。
10	主語と動詞の関係性に注目しながら文章を読み解くことができる。	主語と動詞の変化の関係を学んだ後、unit4:part5 穴埋めの練習問題。
11	reading の解き方と語彙を学ぶ。	文法の復習とnit4: part 6 reading の練習問題。
12	簡単な文章の書きとりと会話を理解できる	簡単な英語の文を聴きとり書いてみる。会話を聞いて内容を理解する練習。
13	まとめ	テスト対策
14	テスト	テスト
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	VERY EASY TOEIC 2 (Compass Publishing)
参考文献・資料等	
備考	